



きょう かい 教誨あれこれ

全国教誨師連盟広報誌

第5号

令和元年7月発行

公益財団法人 全国教誨師連盟
東京都中野区新井3-37-2

教誨師(きょうかいし)は、
刑務所などに収容されている人との対話を続けています。

令和3年に 近代宗教教誨150周年 を迎えます。

麓刑務所での教誨

失敗から学びに～

麓刑務所は九州における唯一の女子刑務所です。かつては麓と言われる程、山の麓にありましたが、今は九州新幹線が走り、車窓から見える程開けた場所となりました。

平成14年6月から女性の教誨師をという事で、月に一度のキリスト教教誨を現在も続けています。当時は5、6人程の参加者で午後5時30分からでした。日暮れが早い11月に入ると鬱蒼とした鉄扉から数メートルの駐車場に行くだけなのに涙することが多々あったのは、自分の話の内容への反省や居室に戻って行く被収容者の事などを思う気持ちが交錯していたからでしょうか。今は毎月第3金曜日となり、教誨を行う教室の窓から新幹線が疾走する風景が時の流れを感じさせます。

キリスト教教誨は勿論グループ教誨ですが、人数が多いためにA・Bグループに分かれて行っています。行き始めた当初から人数が徐々に増え、20数名での教誨になってからでしょうか、警備の関係で2グループに分かれました。そのおかげで落ち着いた1時間となりましたが、グループで隔月となったことが少々残念です。

以前、担当職員さんが「ここでは笑うことが少ないから、先生、笑うお話をしてください」という事を話されましたので、日々の生活の中で失敗ばかりする私の身近な“失敗から学ぶ”話を聖書の箇所と合わせて解釈して10分程話します。つい最近は母親と反りの合わない孫と暮らしながら二人三脚の大学受験のことを話しています。被収容者からの「先生、



教誨を行う世良田師

大変でしょうけど、それが出来るから良いですね。此処にいる私は何も・・・」女性ならではの繊細な母心なのでしょうか。

教誨で歌う讃美歌は“アメージング・グレース”や“いつくしみ深き”が愛唱歌で歌われます。

17年間の教誨の中で、10人の方が洗礼を赦され受けています。出所したら教会の礼拝に行くことを楽しみにしています。すでに3人の方は出所後に行こうと思っている教会の牧師に手紙を書き文通をしています。これこそが宗教教誨の基本と思い、洗礼を所内で受けることを見守ってくださる施設側の配慮に感謝です。

讃美歌を歌い、聖書に親しむ教誨の時、また、私の失敗や身近な話に涙しつつも収容生活を送る彼女たちに寄り添う教誨をしたいと願い、日々の自分の研鑽に励みたいと思っています。

(日本基督教団 麓刑務所教誨師 世良田 静江)

女子を収容する刑務所・少年院

女子刑務所

平成30年4月1日現在、女子受刑者を収容する刑事施設として、11施設（医療刑務所及び拘置所を除く）が指定されています。

平成29年中に新たに刑事施設に入所した女子受刑者の数は1,892人であり、全体（19,336人）に占める割合は9.8%と、男性に比べて極めて少数となっています。女子の収容率は、平成18年までは100%を超えていましたが、女子受刑者の収容定員が拡大されたこともあり、平成23年からは低下し、平成29年末は68.6%でした。

女子受刑者の特徴として、過去に受刑歴がある者が約半数を占めることのほか、65歳以上の高齢受刑者が増加傾向にあることが挙げられます。平成29年中に新たに刑事施設に入所した女子高齢受刑者は373人でしたが、平成10年と比べると約8.5倍に増加しています。女子入所受刑者全体に占める比率は、平成29年には19.7%となり、平成10年と比べると16.0pt上昇しています。

また、女子受刑者の罪名を見ると、窃盗と覚せい剤取締法違反だけで80%以上を占めており、なかでも、高齢受刑者については、85%以上が窃盗により刑務所に入所しています。万引きなど比較的軽微な犯罪を繰り返し、刑務所に何度も入所する女子高齢受刑者の存在がうかがえます。

女子受刑者については、その特性に応じた処遇の充実を図るため、地域の医療、福祉、介護等の専門

家と連携する「女子施設地域連携事業」の推進や、「女子受刑者特有の課題に係る処遇プログラム」の策定等を行っています。

また、女子刑務所独自の職業訓練として、栃木刑務所、笠松刑務所、和歌山刑務所の3施設で「美容科職業訓練」を実施し、美容師免許の取得や就労を見据え、技能の維持・向上を図るとともに、接客マナー等の実務能力の育成を行っています。この3施設には、一般の方が利用できる美容室が設置されており、同訓練で美容師の資格を取得した受刑者が就業しているところ、地域の皆様に金額の安さや丁寧な仕事ぶりを評価していただいています。

そのほかにも、「介護福祉科職業訓練」を7施設（平成31年度からは8施設に拡大予定）で実施し、介護福祉士の受験資格となる介護職員実務者研修修了証を取得させるなど、就労に結び付く訓練の充実を図っています。



美容科職業訓練の様子



高齢化が進む女子刑務所



介護福祉科職業訓練の様子

女子少年院

平成30年4月1日現在、全国に51ある少年院のうち、女子少年を収容しているのは女子少年院9施設、第3種少年院*2施設の全11施設です。

平成29年中に少年院に新たに収容された少年の数は2,147人でしたが、このうち、女子少年は148人で、全体の6.9%でした。女子少年の全体に占める割合は、おおむね横ばいで推移しており、刑事施設と同様、男子少年に比べて極めて少数であることが特徴となっています。

非行の態様も男子少年とは傾向が異なります。窃盗や傷害といった男女共に多くを占める非行がある一方で、覚せい剤取締法違反や「ぐ犯」*は、女子少年に多く見られる非行となっています。

少年院における処遇の中心は矯正教育であり、個々の在院者の特性や必要性に応じ、「生活指導」、「職業指導」、「教科指導」、「体育指導」、「特別活動指導」の5つの指導を効果的に組み合わせて実施していま



茶道クラブ(特別活動指導)の様子

す。なかでも、中核となるのは「生活指導」であり、基本的な生活習慣や適切な対人関係の持ち方の獲得、非行に関わる様々な問題改善等を図っているところです。

女子少年の特性や抱える課題等が男子少年と異なることも多いことから、矯正局においては、平成25年度から、「女子少年院在院者の特性に配慮した処遇プログラム」の開発、試行を重ね、現在は、全ての女子少年院において実施しています。

このプログラムは、女子少年の特性のうち、①自己表現力が乏しく、適切に問題解決できないこと、②自己イメージが悪く、逃避や依存で問題を回避しがちであること、③被害経験によるトラウマなどの内面の不安定さがあることの3点に着目して開発したものであり、問題行動の類型にかかわらず、多くの女子少年に共通する処遇ニーズに対応するための「基本プログラム」(アサーション、マインドフルネス)と、特に自己を害する程度の深刻な問題行動に対応するための「特別プログラム」(摂食障害、自傷、性問題行動)から構成されています。

また、矯正教育に加え、就労・修学に向けた支援、保護者に対する協力の求め等も実施しており、こうしたきめ細かな処遇によって、在院者の改善更生と円滑な社会復帰を図っています。



女子少年院の外観(一例)



女子少年院の居室(一例)

*第3種少年院：心身に著しい障害がある者を収容する
東日本少年矯正医療・教育センター及び
京都医療少年院

*ぐ犯：刑罰法令に触れる行為はないものの、保護者の
正当な監護に服さない、犯罪性のある人との交
際があるなど、将来、罪を犯すおそれのあるも
の

※この原稿は平成31年2月に法務省矯正局から頂きました。

管区通信員だより

追弔会で開拓の労苦を偲ぶ

札幌管区

明治期の北海道開拓、ことに帯広十勝地区の開拓の歴史において、刑務所（当時は監獄）の担った役割は非常に大きく、決してその事実を忘却すべきでない……そのような思いから、平成28年より年1回、帯広刑務所・帯広少年院教誨師会（小澤眞了会長）の主催により、「十勝監獄・帯広刑務所無縁物故者合葬の碑追弔会」が開催されています。

これは、「帯広十勝の開墾に従事した監獄の役割を看過して、この地域の開拓の歴史を後世に正しく伝

えることはできない。合葬の碑に眠る当時の被収容者～日々の糧食と開拓器具を背に、一面の荒漠した林野に斧を振るい、道を作り、橋を渡し、苦渋の行進を続けた、歴史に名を残さぬ先人たち～その労苦を偲ぶ式典を実施し、合葬の碑建立の精神を引き継いでいきたい」という小澤会長の発案により始められたものです。

合葬の碑は、帯広市緑ヶ丘墓地にあり、昭和28年10月に建立されたもので、「俱会一処」と彫られています。この合葬の碑追弔会は今回で3回目を迎えましたが、各教宗派が順に追弔の儀式を執行することになっており、昨年は浄土真宗本願寺派の担当でした。奏楽のなか厳かな追弔の式が執行され、名執雅子法務省矯正局長をはじめ、札幌矯正管区長、北海道内各矯正施設長、十勝管内の市町村長など、多くの参列者が往時を偲び焼香いたしました。

（浄土真宗本願寺派

帯広刑務所・帯広少年院教誨師 桃井 信之）



追弔会

只見川電源開発作業隊慰霊祭

仙台管区

戦後、国の発展のため電源開発が国策とされた時期がありました。それに沿って昭和26年12月から同33年11月までの7年間にわたって、延べ675,921人の宮城刑務所の受刑者が只見川電源開発作業に従事しました。

冬は3m近い積雪と極寒、夏は猛暑の中、昼夜を分かたぬ難工事。真摯に仕事に取り組む受刑者たちの姿に地域住民も感動したと言われ、刑務作業の歴史の中でも稀なことであったと聞きます。

しかしながら、工事中に怪我をしったり健康を害す

る者もあり、刑務官3人と受刑者7人が亡くなっています。昭和54年に宮城県教誨師会と宮城刑務所篤志面接委員の方々によって、慰霊碑が片門ダム（福島県河沼郡会津坂下町）脇に建立されました。以降、毎年秋に教誨師が順番に担当しながら、慰霊祭を行っています。

このような慰霊を行うことで、教誨師それぞれが、“一人一人の生命は平等で尊重されるものであり、分け隔てない心で教誨活動を行なわなければならない”という想いをあらたにさせていただいております。

（浄土宗 宮城刑務所教誨師 中村 瑞貴）



片門ダム



キリスト教教誨師による慰霊祭



神道教教誨師による慰霊祭

管区通信員だより

少年たちと共に

東京管区

茨城県牛久市にある茨城農芸学院（少年院）では、昭和44年、3代目の溝口嘉夫院長の時に、鴨崎仁彦教誨師が中心となり4名の教誨師で1泊2日の宿泊研修会が始められました。

当時は、少年たちと共に白菜や大根などを収穫し、グラウンドで煮炊きして会食。そして夜は、家庭寮で施設の先生方と懇親を深め、その研修形態は現在に引き継がれています。今では、院を取り巻く環境の変化もあり、授業の見学が主になっていますが、草刈りなどで共に汗を流し、一緒に食事をとると、

少年との距離が近くなったように感じます。また、先生方との交流では、少年にどう接するべきかなど、熱い議論になります。

昨年公開の大杉連の遺作映画

『教誨師』の中には、「私にはね、やることはありません。あなたのそばにいます。」という台詞があります。

この宿泊研修会は、私たち教誨師が先生方と共に少年たちのそばにいたいこと、つまり、自分自身の立ち位置を確認させていただき研修会だと思います。

今年は研修開始から50年目の節目を迎えます。新たな半世紀に向けて、この宿泊研修会を続けていく思いを新たにしたいと思います。

（浄土真宗本願寺派 茨城農芸学院教誨師 佐野 徹）



少年の家族が宿泊したり、面会等を行う家庭寮

教誨140周年記念碑の建立

福岡管区

熊本における教誨は、熊本刑務所の前身である熊本監獄において、教誨発祥の地、名古屋監獄に遅れること1年、明治6（1873）年9月、県庁の許可を得て、真宗大谷派定得寺山根湛霊住職が、男監と女監、毎月2回の教誨を行いました。これが熊本における教誨の始まりです。以来常置教誨師70名、更には戦後の憲法施行後の歴代教誨師と、現役教誨師110余名が教誨の灯をともし続けてきました。

平成25（2013）年9月で140周年を迎えました。それを記念して記念碑を、熊本刑務所内の舎房と運動場の間に建立しました。

御影石の四角柱の台座に、円型の碑文石には大書で「自他ともに いのち尊し 今朝の春」、台座石には全国教誨師連盟からの、教誨に誘う文を引用して、被収容者の皆さんが日々教誨に、関心を持っていた

だき、私たち教誨師も彼らの近い存在でありたいとの願い込めた、記念碑が建っていることをご報告致します。

（浄土真宗本願寺派 熊本刑務所教誨師 後藤 法龍）



連盟とびっくす

来し方、行く末に、想いを馳せる。 第37回全国教誨師大会

平成30年10月31日～11月1日

標記の大会が広島市で開催されました。4か月前に「西日本豪雨(平成30年7月豪雨)」が発生し、その爪痕を心配しておりましたが、関係各位の熱意、ご尽力により何不自由なく、実りのある研修をさせていただきますました。



大会に先立ち原爆慰霊碑に連盟前総裁・総裁・矯正局長が献花

大会は名執雅子矯正局長・梶木壽弁護士のご講演と、梶木先生・塩山二郎先生(臨床心理士)・西井一宜先生(保護司)の鼎談が大きな柱でした。

名執矯正局長の講演からは、再犯防止のためには帰住先・就労先を確保するだけでなく、地域社会での差別や排除による孤立無援を解消することが大切だと学びました。

鼎談では、被収容者には犯罪の発生から更生までの一貫した“伴走者”がないことが指摘され、「教誨師は収容中のみ関係を結ぶ存在だが、せめて、被収容者の収容前から出所後に至る人生に想いを馳せよう。それは相手の心を開くことにもなる。」という指針をいただきました。

まさに教誨のキモを拝聴した想いで大会を後にしました。

(曹洞宗 多摩少年院教誨師 太田 賢孝)

千葉県教誨師会創立70周年記念 山下 洋輔「講演・ミニコンサート」

平成31年3月12日

現在、千葉県内には4つの矯正施設(千葉刑務所・市原刑務所・八街少年院・市原学園)があり、それぞれの施設に所属する教誨師が集まり、「千葉県教誨師会」を組織しています。平成30年度、千葉県教誨師会は創立70周年を迎える事となり、記念事業を千葉刑務所で開催いたしました。

会場となった千葉刑務所は、かつて「千葉監獄」と呼ばれ、明治五大監獄*の一つとして明治40年竣工、今年で112年目となる現役の施設です。正門



千葉刑務所 外観

と本館は、赤レンガ造りのイタリア式洋風建築で、刑務所らしくない特徴的外観となっています。

この千葉刑務所を設計した建築家山下啓次郎氏の孫にあたる、世界的に活躍するジャズピアニスト山下洋輔氏に『明治五大監獄設計に携わった祖父～山下啓次郎の事績～』という演題で、ピアノ演奏と共にご講演いただきました。

演奏旅行に訪れた鹿児島で、旧鹿児島監獄が祖父設計と知り、興味を持って調べる内、『ドバラダ門』という自身初の歴史



山下 洋輔 氏

小説執筆に繋がった事。自分のルーツが監獄建築家だったのはショックだったが、明治初期の「開国した日本」が欧米並みの文化水準を早急に目指す中で、その監獄設計に携わった祖父を誇りに思う事。お話しの合間にスタンダード曲や童謡をアレンジした曲、オリジナル曲の素晴らしい演奏。ご縁の深い当所での講演は、終始和やかな雰囲気の中にも感慨深げなご様子。ひとたびピアノに向かえば、優しさや厳し

さ、ユーモアを一音一音に込めて演奏されていました。

「自分が今ここに立っている奇跡は、お祖父さんのおかげ、ご先祖様のおかげ、皆さんのおかげ」という言葉を何度も仰っていたのが印象的でした。

熱烈なアンコールにより、圧巻のボレロで幕を閉じ、あっという間の90分間でした。

(真言宗豊山派 千葉刑務所教誨師 菅野 義浩)

*明治五大監獄：千葉監獄（現・千葉刑務所）、金澤監獄（現・金沢美術工芸大学）、奈良監獄（旧・奈良少年刑務所）、長崎監獄（正門のみ現存）、鹿児島監獄（正門のみ現存）

『こころの豊かさを求めて』から

「こころの豊かさを求めて」には、被収容者からの宗教教誨に関する103編の作文が収録してあります。(絶版)

被害者の気持ちが分かるはずなのに・・・

貴船原少女苑 E・S

「彼も最初の被害者だった。」

少年院に来られる教誨師の先生が講話で言われた一言です。彼とは、現在、殺人という罪を犯して拘置所に入り、裁判の第一審、二審で死刑を言い渡された人のことです。そして、今、彼は最高裁での裁判を待ちながら、「できることなら何か罪滅ぼしをしたい。」と考えているそうです。

私はその言葉を聞いて、自分のしたことを振り返りました。

中学生の頃の私は家出をして、以前から仲の良かった地元の暴走族の先輩の家に泊めてもらっていました。何日かお世話になっているうちに、私はその先輩の機嫌を損ねるようなことをしてしまい、公園のトイレの中に閉じ込められ、暴行を受けました。そのことはとても辛い記憶で、今でも思い出すと怖くなります。きっと、心に見えない傷として残っているんだと思います。

そして、私が被害にあってから二年後、私は同じ傷を他の人に負わせてしまいました。家出をし、私を頼ってきた後輩に、ささいなことで腹を立て、暴力を振るいました。私の頭は、「こいつも私と同じ目にあえばいい。」「殴られないとわからないのだから殴る。」そんな気持ちでいっぱいでした。

私は昔、被害者でした。でも、いつのまにか、加害者になっていました。私自身、人から暴力を受け、

被害者の痛みが分かるはずなのに、人に同じことをしてしまったのです。

私だけではなく、少年院や刑務所に入っている人の多くがそうなのかもしれません。でも、「被害者だったから」、その言葉は言い訳にしかありません。結局、誰であろうと、人から幸せを奪う権利はないのです。自分が被害者だったからといって、他の人に自分がされたことを同じようにしていいわけではないということがようやく分かりました。むしろ、反対に、被害者だったからこそ、見えるなにか、できるなにかがあったように思います。

今となっては、ただただ後悔するばかりです。

これから、被害者であり、加害者である私たちのできること、それはこれ以上悲しい思いをする被害者を作らないことだと思います。そして、被害者が加害者となり、新たな被害者を生まないように、償いをしていくことなのではないでしょうか。



挿絵：真言宗智山派 川越少年刑務所教誨師 腰塚 勝也

札幌刑務支所での教誨

《わざわいの雲たえずして／人の世の風は冷たし／す
がらばや大いなるみ手／あたたかきそのたなごころ
／みちびきの／みめぐみの／みほとけ尊と》

—仏教讃歌「わざわいの」美しい旋律に満たされて
集合教誨が始まります。私が教誨に携わる時間は午
後12時半から1時間。訪問回数は支所の事情で隔
月の年5回に半減しました。参加者は5人から多い
時で15人と一様ではありません。その他に忌日を
ご縁とした個人教誨が加わります。

平成18年に新築された当施設は明るく開放的な
空間に恵まれ、教誨に充てられる部屋も学校の教室
さながら、ひと時の自由な空気を味わうのに充分で
す。それだけに正面に安置されたお仏壇は異次元の
世界。み仏と向き合う一期一会の出会いに緊張感が
漂います。

この日も先ず近所のご門徒から頂いた生花をお供
えし黙想一勤行一仏前焼香一法話の順に進めます。
限られた時間の中でお経の反復練習や仏事作法の説
明など、つい一方通行の話に流され反省すること頻
りです。それでも参加女性は節のついたお経をきれ
いな声で唱和してくれます。彼女たちが最も活々と
自己表現できる瞬間のように感じられます。

当支所ではかつてのような過剰収容は大幅に緩和
され、定員500人
に対し今は約300
人に減少しました
(未決を除く)。数
が減ったことで所
内の生活環境が改
善されたかとい
うと、現実



札幌刑務支所

はそう簡単ではない
ようです。

以前から被収容者
の高齢化(平均年齢
49歳)と高い再犯
率(入所平均2.7回)
が指摘されてきま
したが、これらの要
因も絡んで処遇困
難者が年々増え続
けているというの
です。



教誨を行う木村師

特に当支所は覚醒剤事犯が窃盗罪を上回り、犯罪
件数の約40%を占めワースト1です。又累犯傾向
が高く長期受刑者も目立ちます。

高齢者の多くは同時に複数の疾患を抱え、全体の
60%が投薬を受け、その半数が精神科の処方薬と
いうデータもあります。ある処遇担当官は「不眠や
自傷行為に加え、特に女性に多いのが過食・おう吐
を繰り返す摂食障害です。医師やカウンセラーの精
神的ケアが不十分な今の状況では再犯の増加につ
ながりかねません」。そんな彼女たちの再起を願う刑
務官120人余りの激務は今日も続いています。

その傍らで私が担う教誨は、余りに微弱で上滑り
で心許ないものです。ただ願うことは一人として見
捨てることなく、倦むことなく大いなるみ手の中
に掬め取ると誓われた、阿弥陀如来のお慈悲を何
とか伝えたいものと、また重い足取りで鉄の扉をく
ぐります。

(浄土真宗本願寺派

札幌刑務所・札幌刑務支所教誨師 木村 良磨)

編集後記

令和最初の「教誨あれこれ」は、女性にスポットを当てました。様々な立場や境遇、価値観を正面から受け止めて、その上でより良い方向へと促せるよう、我々教誨師も向き合う必要を感じます。これからますます精進して参ります。

(広報委員 林)

全国教誨師連盟は皆さまからのご寄付により運営されております

犯罪者や非行少年等の改善と更生のために活動している教誨師にご理解とご支援をお願いします。

寄附金受付口座(郵便振替) 00130-4-46544

公益財団法人 全国教誨師連盟 TEL 03(3389)7411